

令和6年度 第4回 神戸中学校区学校運営協議会 実施報告書

1 日時 令和6年11月12日(火)16時～17時30分

2 場所 神戸中学校会議室 出席者 39名

3 内容

(1) 講演「非認知能力の育成」

鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 橋本 伸清先生

(2) 意見交換(4分科会)

【第1グループ】

(感想)

- ・今の子どもは昔の子どもに比べて人間力が低い。
地域で非認知能力を育てるのは難しい。
- ・朝、週に数回、通学路の草取りを行っているが、挨拶をしても返事がない。
夕方、特性のある子と野球をしたり草取りをしたりして、話をするようになった。
face to faceの重要性を感じる。
- ・非認知能力、人間力について理解が深まった。言葉だけでなく、経験も大事だということがわかった。
- ・時代が変わり、コミュニケーションの取り方も変わっているのは事実だと思う。でも、「face to face」の重要性は変わらない。
- ・昔は非認知能力など考えてもみなかったが……。子どもを育てる勉強以外の「場所づくり」が大切ではないか。
- ・昔とは親の気質が変わったと思う。子どもはそれほど変わっていないと思う。昔は「うちの子なんて…」今は「うちの子最高」
- ・子どもと関わる大人が減った。PTAに関わる人、PTA活動も減った。

【第2グループ】

(感想)

- ・常々考えていた通りでよかった。
- ・15年間地域のことをやってきたが、今日の話は良かった。
- ・非認知能力は大事だと思うので、今後の生活や地域に生かしていきたい。
- ・地域の人とのかかわりが重要である。普段の活動は間違いでなかった。
- ・地域の中で今後も関わっていきたい。
- ・これからはもっと見守っていくようにしたい。普段の挨拶も大事だと思った。

- ・朝の子どもの顔を見ているとよくわかる。朝の見守りが大事だと思う。
- ・今の子どもは忙しすぎる。
- ・非認知能力とは難しいが、もっと子どもが小さいときに聞きたかった。
- ・自分の子育てについて反省している。
- ・今は孫がいるが、自分の子どもとどれだけかかわってきたかと考えさせられた。
- ・子どもとのコミュニケーションは重要だと思う。
- ・お母さんの膝の上に乗ったうれしい思い出がよみがえってきた。いまだに昔の記憶は残っている。
- ・親子の会話を忙しい毎日でも時間を作ってもっと増やしていくことが重要。
- ・昔のことを思い出した。ふれあいを大切にしていきたい。
- ・若いころと違っていろいろ考え方が変わってきたように思う。
- ・娘たちに声をかけて、話していきたい。
- ・親への教育が大事だと思う。次の世代にどう引き継いでいくか。
- ・若い人をどう育てていくか。
- ・保護者に今日のような話を聞いてもらったらいいと思う。
- ・実際に伝えられる機会が必要。今日のような話を聞く機会をもっと作ってほしい。
- ・講習会のようなものにすればいいのではないか。

【第3グループ】

(感想)

- ・とても良い内容でわかりやすかった。
- ・子どもの育ちには大切なことで特に子どもが安心して自己肯定感を高めるには非認知能力を育成していく重要性を知った。

(保護者の立場から)

- ・親に余裕がないときには言葉がけに悩む。
- ・時代の変化についていけない。
- ・周りの子がしていることに焦りを感じてしまう。

(祖母の立場から)

- ・母親が仕事で不在なので、学校から帰ったときは必ず「おかえりなさい」「えらかったね」と声をかける。母親と祖母は立場が違うので、学校のことは聞かない。
- ・「おかえり」の言葉で子どもは安心感がもてるのではないか。

(自治会関係の立場から)

- ・祭り、町内清掃など男性の参加が少ない。家庭でも男性が関わる場面をつくってはどうか。
- ・地域の人が自主的に取り組める場面や時間を決めて参加しやすいように配慮していきたい。

(民生委員の立場から)

・地域の人に親子で遊ぶ機会を作る。(未就学児)遊び方、接し方を専門の人から教えてもらう。

(学校から)

・非認知能力を養うためには、決まりがないので、やり方がいろいろあり、手探り状態で取り組んでいる。

(課題)

サロンなど様々な場所にいけない親や子供のフォローをどのようにしたらよいか。

・一人暮らし、引きこもり、ヤングケアラー等の人(子ども)との接し方

・このような問題を抱えている時には一人で抱え込まず、グループで考え、取り組んだほうが良い。

(まとめ)

・大人に時間がないときは抱きしめるだけでよい。

・親子で10分だけ会話をする時間を作る。

・食事、睡眠は基本なので、家庭で努力したほうが良い。

・挨拶「おはよう」「おかえり」「おやすみなさい」等は子どもと目を合わせて伝える。

・子どもからの呼びかけには、忙しくても「あとから」「今は忙しいから」等を言わずにまずは、「何だった?」と言い、子どもと目を合わせて聞くようにする。

・親に余裕がないときは親でなくても周りの大人(祖父母、地域の人、学校の先生当)で声掛けをしてもいいのではないかな。

【第4グループ】

(感想)

・非認知能力について、これまで耳にしたことはなかったが、最近改めて言われているようだ。

・学習ボランティア(算数)をしていると、個性のある子がいる。虫好きの子は、虫好きである。何事も押さえつけるのではなく、子どもの目線に合うことを大事にしたい。

・非認知能力の育成のために、地域ができることは何か。

→「挨拶運動」などできることから始めたい。地域で子どもたちの遊び場が失われているということもある。神戸花火大会等、地域でできることを考えていきたい。「神戸の町っていいなあ」と思えるまちづくりができるとうい。

・小学6年生の子育て中だが、今日の話聞いて、しっかり意識して子どもと接していきたいと思った。大人が忙しい中でもゆとりが持てるのが大事だと思う。

・日々の試行錯誤や、日々の挨拶など、できることからやっているといいと思う。社会性を身につけるという意味では、地域の子に我が子に接するつもりで声掛けをしていけるといい。